

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 27 年 5 月 20 日			
氏 名				
所属学部・研究科	生物生産学部食品科学コース 3 年次 (留学開始時点)			
学 生 番 号				
留 学 先 大 学	James Madison University (国名: アメリカ合衆国)			
所属学部・学科等名	なし			
在 籍 身 分	Exchange student			
留 学 期 間	平成 26 年 8 月 16 日～平成 27 年 5 月 6 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: J1			
	ビザ申請先: 大阪アメリカ大使館			
	取得方法, 提出書類: DS-160, パスポート, 証明写真, DS-2019, SEVIS 費用支払い確認書			
	手続きに要した日数: 約3ヶ月			
その他必要な事前手続き	面接予約			
出国年月日	平成 26 年 8 月 16 日			
経 路	広島空港 - 羽田空港 - 成田空港 - ダレス国際空港			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	到着後3日間のオリエンテーション。International student のみのもので、大学内の施設説明、必要書類や手続き方法などを説明してもらえる。また、LINKER という international student の先輩たちが7人グループに1人程度で配属され、生活面での相談に乗ってくれる。			
帰 国 年 月 日	平成 27 年 5 月 10 日			
経 路	ダレス国際空港 - 成田空港 - 広島空港			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	約 100 万	円	
	内訳	渡航費	28 万	円 (支払いは広大)
		保険料	12 万	円
		教科書代(学費)	5 万	円
		宿舍費	40 万	円
		食費	40 万	円 (ミールプラン購入)

	その他 (旅行 費) (費) (費)	20 万	円 円 円
3. 授業について			
2014 年 秋学期	8 月	21 日	～ 12 月 15 日
2015 年 春学期	1 月	12 日	～ 5 月 12 日
年 学期	月	日	～ 月 日
年 学期	月	日	～ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	1 学期に最低 12 単位を履修しなければならない。		
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること		
学術面に関する後輩へのアドバイス	1 学期目では履修期間や語学力の問題等で履修できない講義があるが, 2 学期目では交渉次第で履修の幅がかなり広げることができる。		
4. 生活等について			
(1) 留学先の住居について			
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()		
住居の広さ	約 m ²	同居人の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (1 人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input checked="" type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()		
住居費	1 ヶ月当たり	\$4,800 (現地通貨)	約 5 万 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()		
留学先での住居全般に関するアドバイス	寮は講義等や食堂に近く立地的に便利ではあるが, ルームメイトやどの寮になるかはランダムなので快適さは運次第。		
(2) 医療について			
1 日以上入院を要する病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった		
入院した場合	により 日入院		
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった		
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()		
掛け金は	年間	12 万 円	
	補償額 死亡	円, 入院 1 日	円
	その他 ()		
留学前後での予防接種の必要の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		

有の場合、その種類、回数、費用、受けた医療機関名	ジフテリア、B型肝炎(2回)、髄膜炎(2回)、麻疹・風疹・おたふく(2回)、ツベルクリン検査 留学前にほぼ全て西条の病院で受けたが、B型肝炎の2回目は間に合わなかったのでJMUのHealth Centerで受けた。	
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由：	
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	医療技術のレベルは日本と同じかそれ以上。しかし、保険の有無によってかなり治療費が異なった。特に歯科は高額になる場合が多かった。	
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	冬の寒さ・乾燥によって風邪を引きやすい。ルームメイトとは全く仕切りのない部屋なのでどちらかが病気になるとう面倒。	
(3) 危険を感じた地域、状況		
夜の学校の敷地外。暴行事件、時に殺人事件が起きていた。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
学外に一人で出歩くと犯罪に巻き込まれる可能性がかなり高いらしいが、学内で過ごす限りは安全だった。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 29年 3月	(当初の卒業予定年月 平成 28年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に 卒業論文研究にかける時間を削りたくなかったため)	
現在の状況および今後の予定・進路等	研究室に配属され、卒業研究に取り掛かる。学部卒業後は大学院に進学予定。	
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	留学前から1年延長させる予定だったので特に工夫はしていない。	
6. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等		
書籍、サイト名	詳細(出版社、URL等)	コメント
米国ビザ申請	http://www.ustraveldocs.com/jp_jp/index.html?firstTime=No	
7. 自由記述(後輩へのアドバイス等)		
JMUは学生への学習の支援が手厚く、勉強面で充実した留学ができると思います。また全米でも有数の美味しさを誇る学食や、美しいキャンパス、キャンパス内でのイベント等、勉強外の楽しみもたくさんあります。私は2セメスターを終えて、JMUへ留学してよかった、と心から感じました。		

注1) 以下のものを添付してください。(様式任意)

学習の概要に関するレポート

私は JMU で交換留学生として 2 セメスター過ごしました。JMU では交換留学生は基本的に母国の専攻に関わらず自分の好きな授業を履修できます。私は広島大学での単位互換をあまり重視していなかったため、シラバスを読んで興味があったものを中心に選択しました。

初めのセメスターである秋学期では、ライティングを 1 つ、コミュニケーション学を 1 つ、健康科学を 2 つという 4 種類の講義を履修しました。専攻の学習に併せて英語の勉強もしたかったからです。私の留学前の英語の勉強はほぼ TOEFL に向けてのもののみだったため、学期の初めは話のスピードや口語的表現についていくことができず、内容の理解に苦労しました。しかし、予復習や先生へ質問することによって徐々に慣れていきました。また、同じ講義を受けている学生がノートを見せてくれたり、教えてくれたりしたのでとても助かりました。コミュニケーション学の授業では授業課題として約 25 分間のグループプレゼンテーションをしたり、健康科学の授業ではグループで毎週テストを受けたりとアメリカ人の学生たちと授業中に関わる場面も沢山ありました。難しさを感じることももちろんありましたが、私も他のアメリカ人の学生と同等に扱われているのだという自覚や責任感を感じ、勉強のモチベーションになりました。

また、授業外での学習サポートも充実していました。例えばライティングセンター。ライティングセンターでは私のレポートを文法レベルから添削してもらえました。留学生向けの英語学習のセッションも毎週単位不要で開かれていて、私は英語に自信がなかったため時間が許す限り利用しました。

春学期には栄養学を 2 つ、ライティングを 1 つ、生物学を 1 つという構成で履修しました。英語に慣れてきたということもあり、学習面ではかなり楽になりました。また、兼ねてから履修してみたかった栄養学の授業を取ることができたので、モチベーションもさらに高まりました。特に Experimental Food という栄養学の授業では食品科学の講義と併せて実際に料理をしてみるという「実験」も含まれていて、毎回の授業が楽しみでした。この授業は比較的少人数で、栄養学専攻の 4 年生のみだったので個人の学習意欲や知識量も非常に高かったです。先生が出す宿題や予復習の量は少なかったのですが自主学習を各々が行っていて、授業中に皆で知識を共有しました。先生と学生との信頼関

係があるからこそできるこのスタイルが私はとても好きでした。

私は留学が終わる頃になってもアメリカ人の学生と同じスピードで話したり、授業中の英語を100%聞き取れるようになれず、9ヶ月の留学を終えた今でも英語への苦手意識は消えません。しかし、先にも述べたように先生への授業後の質問や様々なサポート機関を利用することによって、他の学生と同程度に授業を理解できることや課題をこなせることを知りました。実際、授業中に復習の内容になった時にはネイティブの学生よりも私の方が理解しているという場面も時々ありました。語学力があるに越したことはありませんが、どんな形であれ努力は無駄では無いのかなと思います。先生方は質問をととても気軽に受け付けてくださいますし、時には進路の相談にもものってください、将来に繋がる留学となりました。

生活の概要に関するレポート

JMU には多くの留学生がいますが、日本人は少なく、私が把握している限りでは大学全体で10人程度でした。そのため普段の生活で日本語を使う機会は他の日本人と会う約束でもしない限り、ほとんどありません。英語を身につける、という意味でとても良い環境だったと思います。

交換留学生は基本的にキャンパス内の寮に宿泊しなければならず、私もそうでした。大学の寮は建物の古さによって設備の違いがありますが、私の寮には共有キッチン、共有シャワールーム、スタディーラウンジ、テレビラウンジ、共有洗濯乾燥機といったものが設備されていました。居室はすべての部屋が仕切りの無い2人部屋で、3つの2人部屋が1つの大きな部屋に繋がっているという構造でした。個室は無いので一人の時間が欲しい時は辛かったですが、ルームメイトや近くの部屋の友人と一緒に映画を見たり、時々企画される寮内のイベントで友達の輪を広げたりとメリットも沢山ありました。

寮生はミールプランに加入しなければならぬので食事はほぼキャンパス内の食堂で取っていました。バラエティーも量も豊富なので飽きることは無かったです。また、多くの友人が食堂を利用するため食事の時間は交流を深める良い機会でした。初めのセメスターでは勉強についていくことに必死だったのでクラブ活動やイベントにはあまり参加できませんでしたが、2セメスター目には余裕ができたので、カルチャーショーに出たり、キャンパス内のイベントに参加したり、週末に友人と旅行に行ったりしました。また、大学構内は芝生がとても綺麗に手入れされていて、学生たちのリラックススポットになっています。友人との暖かい晴れた日の日向ぼっこは私の大好きな時間でした。

留学生に向けたイベントもいろいろとありました。サンクスギビング前の豪華な夕食や、ハロウィンのランタン作り、アメリカンフットボールの観戦、イースターのエッグペインティングなどです。これらはアメリカの文化を知る良い機会でしたし、沢山のひとと知り合うこともできました。

約9ヶ月間アメリカで暮らしてみて感じたのは、英語の力というものは単語力や文法の理解力だけではないということです。もちろんそれらは不可欠な要素ですが、それに加えて文化的な部分の知識も必要でした。例えばテレビや映画の話は、たとえ単語が分かったとしてもそれらの内容を知らなければ何を話しているのか分かりません。特に私の英語の勉強は問題集や教科書を解

くといったものばかりだったので、そのような話題についていくことができず苦勞しました。だからといって海外の映画やテレビを沢山見るべきだ、と言いたい訳ではありませんが（実際私は映画をあまり知らなかったお陰で留学中アメリカ人の友人が沢山映画鑑賞会に誘ってくれるようになりました）、共通の話題があると盛り上がるのは確かですし、幅広い教養を持つという点でそのような知識も重要なのではないかと思います。

JMU での大学生活は広島大学のものとは違うことだらけでした。それ故に大変なことも楽しいこともいっぱいだった9ヶ月間でした。失敗して凹むこともありましたが、振り返ってみると、何もなかったよりは良かったかなと思います。これから留学に行かれる方には留学中はとりあえず何でも物怖じせずにやってみることをお勧めしたいです。